

学校経営のポイント

先逝く人々の“生きざま”から学ぶ取組み

若井 彌一

偶然のこととはいえ、音楽・歌謡界で大きな功績を挙げた二人の傑物、村田英雄（本名梶山勇）氏と山本直純氏が6月13日・18日に相次いで亡くなられた（享年73歳，69歳）。

音楽・歌謡界の2巨人が逝去

ワールドカップ関連の記事，国会議員の逮捕関連の記事などで他の記事が小さく扱われやすい状況のもとでは，二人の死亡記事が比較的大きく取り上げられたという印象が強い。それだけ二人の生前の音楽・歌謡界における活躍が顕著であったということであろう。

音楽・歌謡界の二人といっても，二人の活躍した世界は異なっている。

村田英雄氏は，幼いころから浪曲師であった父親の指導で浪曲に才能を発揮した（13歳で真打ち）。その後，作曲・作詞家として活躍していた古賀政男氏（故人）に「歌手」としての資質を見出され，「無法松の一生」「人生劇場」「王将」など次々にヒット曲を出し，人気歌手としての地位を不動のものにした。

他方，山本直純氏は，幼少時から作曲家・指揮者であった父親から学びはじめ，後に東京芸術大学の作曲科に入学し，入学後は指揮科に転科した。大学在学中からテレビ・ラジオなどに出演するなどして，その後いわゆる「クラシック」の普及・大衆化に絶大な影響力を発揮した。フーテンの寅さんで人気の映画「男はつらいよ」のテーマ曲を手がけたり，また，高校野球ファンには忘れがたい昭和63年・第70回選手権記念大会での大会歌「栄冠は君に輝く」の指揮者としても活躍した（ちなみに，このイベントでは歌手さだまさしが熱唱した）。

二人には，学習の事始めを父親から指導されると

いう恵まれた環境で育った共通点がある。しかし，強調したいのはそのことではなく，二人がその恵まれた環境にあまえることなく，その後，師である父親を乗り越える存在になっていったということである。

“自分には何ができるか”を問う

恵まれた環境に生まれ，育った人がすべて例外なく雄飛するわけではない。それどころか，苦労知らずのわがまま者になり，場合によっては麻薬などに溺れたりするケースも時々あるのが現実である。

順境であれ，反対に逆境であれ，それをバネとして生きていく人は雄飛する可能性を深く秘めている。そのような人々は，「志」をそれぞれの発達段階に即して抱いている。「青雲の志」とは，立身出世して高位・高官の地位に到ろうとする功名心を意味するが，村田・山本両氏の場合は「青雲の志」というよりも「博愛の志」あるいは「奉仕の志」とでも称すべきものによって支えられていたように思われる。

児童・生徒が自分の才能を磨き，人々に喜び感謝される存在になる，そのような志を抱くきっかけになるであろう好個の事例として，講話等で一度取り上げてみていただきたい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

■夏季教育管理職研修会のお知らせ■

7月28（日），29（月），30（火）

- 場所＝東京・お茶の水／総評会館大会議室
- 定員＝250人（先着順，定員になり次第締切）
- 申込方法＝ハガキ，FAX，電話，Eメール等で受付

詳細については，小誌『教職研修』7月号または小社ホームページ等をご覧ください。

本紙はホームページでも閲覧できます

好評発売中！ 新指導要領全面実施と“各学校での評価規準づくり”へのテキスト！ 教育開発研究所・刊

小学校 『評価規準の作成と活用』国研・評価規準全文収録

中学校 『評価規準の作成と活用』 7月10日刊予定

B5判270頁・定価2400円

研修誌・図書の小社への直接注文は，無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）